

8月5日に釧路市で開催された「令和7年度少年の主張釧路地区大会」で、茶路中学校3年生の對木亜香さんが最優秀賞を受賞しました。8月29日に札幌市で開催された全道大会では、惜しくも受賞はなりませんでした。その発表の全文を紹介します。

なりたい自分になるために

茶路中学校3年 對木亜香さん^{あこ}

私は初対面の人と話すことが苦手です。なぜなら、相手との会話が進まなかったり、受け入れてもらえなかったりするのが怖いからです。要するに、人との関わりで失敗するのが嫌なのです。

バドミントン部に所属している私は2年生の時、海外の選手と合同練習を行う機会がありました。

後半には翻訳機を使って話し、仲良くなることができましたが、最初は緊張して話しかけるまでに時間がかかり、楽しく過ごせた時間が短かったことをとても後悔しました。

この時の私は、話が続き、空気が重くなり、無駄な時間になってしまふことを恐れ、一步を踏み出せずにいました。しかし、この時「もっと話したかった」という後悔とともに、このままでは新たな

人間関係を構築できないという危機感を覚え、怖がらず自信を持って話せる自分になりたいと思うようになりました。

そんな中、私は自分から話しかけ、行動を起こすことで自分の視点や、人間関係を大きく広げ、さらに成長するチャンスが増えるということを実感した出来事がありました。

それは、白糠町が行っている海外研修で、インドネシアへ行ったことです。初めての海外にとても緊張しましたが、画面の向こうの問題だと思っていた環境問題や治安の問題を目の当たりにしたこと、濃い研修になり、国内外の環境や文化について自分の知見や考えを広げることができました。

人と関わるのが苦手だった私が充実した研修を送ることができ

たのは、日を追うごとに自分から人と関わろうとすることができたからです。

初日はとても緊張し、硬い表情で活動をしていました。しかし、2日目は通訳の方を通じて自分の意思を伝え、意欲的に活動に取り組みました。さらに3日目以降は、進んで現地の方と直接話し、コミュニケーションを取ることにたくさん挑戦しました。はじめは自分から話すことに抵抗がありました。が、一度会話に成功すると心がとても軽くなり、緊張がほぐれました。そのおかげで、周りの人に頼らずに、主体的に活動に取り組みました。

また、スーパーでの買い物体験した時、単語や正しくない文法で話す私の言葉を一生懸命に聞き取り、一緒に商品を探してくれ、見つけた時には笑顔で喜んでくれた店員さんに、初対面の人と関わる勇氣をもらいました。

これらの体験を通じて自分から「積極的に人と関わりたい」という気持ちが生え、人と関わることに対しての考えは「怖いもの」から「可能性を広げてくれるもの」に変わりました。そして、行動を

起こすことは楽しく、相手はこちらに寄り添い、応援してくれるということに気が付きました。

私がした体験は誰にでもできるものではないと思いますが、出会う、新しいことへ挑戦する機会はずりあると思います。私は帰国後、初対面の人にも、自分から話しかけることができるようになりました。互いに笑顔で会話ができる時間はとても楽しく、私を前向きな気持ちにさせてくれます。

たくさんの人と関わり、温かさに触れることで、私はなりたい自分になることができました。私は、これからも人と関わり続け、思いを受け取りながら成長していきたいと思えます。



▶全道大会で発表する對木さん